

国際情報

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第16号

〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuiis.ac.jp URL http://www.nuiis.ac.jp



▲市街地キャンパス校舎改修完成図

10周年記念事業の一環として市街地キャンパスの確保を計画してきましたが、去る8月28日に、旧新潟中央銀行本店跡地及び同ビルを取得しました。21世紀を迎える社会の急激な変化がみられる中、大学に求められるニーズも大きく変様しており、これらに適切に対応し、大学の将来的な発展を図るために是非とも必要な施設であるとの判断によるものです。

この施設は、敷地が2,251坪、建物が地下1階付10階建延11,478坪ですが、築後40年以上経過し、現行の建築基準に適合しない6階建の旧館部

分を解体し、同跡地約550坪は広場として整備し、学生の憩の場となると同時に市民に開かれた場とする計画です。活用する建物(8,646坪)の改修と広場の整備を、10周年記念式典を予定する平成15年6月までに完了します。

開校後は、情報文化学部4年次生の授業、及び大学の広報や就職活動の拠点として活用します。また、同窓会を中心とした卒業生がここを拠点に幅広い活動を展開できるよう支援するための施設整備も計画しています。特に、4年次生にとっては、授業と就職活動を併行して行う時期にあり、より情報の集まる市街地に拠点を置くことで有効に活動できるものと期待しています。

合わせて、国際化・情報化に応える教育研究を押しすすめる本学では、「国際都市新潟」の街づくりをめざす市街地での立地を生かした国際交流や、高速ブロー・ドバンド対応の教育研究をはじめとした新たな展開を図り、県内随の大学立地環境を生かし、大学全体の活性化を図ります。21世紀は生涯教育の時代である、と言われています。本学では、広く地域社会の多様化するニーズに応えて、社会人も通学可能な専門大学院の設置や、特色を生じた公開講座、社会人教育リカレント、教育を開拓し、この市街地キャンパスが、新しい情報発信基地として広く注目を集める施設となることをめざします。

情報センター棟増築

2003年5月竣工

国際センターは、本学の新たな試みによる施設で、情報文化学科が中心となって計画をすすめています。中国、韓国、ロシア、アメリカ、カナダの各提携大学別コーナーを設けて、海外留学制度の周知や留学資料展示をするほか、海外交流サロンや民族資料展示ギャラリー等を設けて、国際化教育を志向する本学の新たな施設として整備します。

(関連記事6P参照)

情報センター(3,381坪)の増築に着手しました。増築部分は、2階建(塔屋付)で延1,646坪、1階は図書館の増設で、2階には新たに国際センターを設置します。図書館は、開学後の蔵書数の増加による書架不足を解消し、毎年約5,000冊増加する図書を今後10年余収容可能とする約120,000冊分の書架を配備します。また新たにグループ学習室、集中学習室、語学学習室、情報発信室等の施設を充実します。



▲沼田小路に面した市民開放広場

十周年記念事業

新潟国際情報大学

本学では、平成15年度に開学10周年を迎えるにあたり、次の20周年記念事業の一環として、市街地キャンパスの開校と情報センター棟の増築に着手しました。関係者をはじめ、本学の開学に期待と支援を得た地域社会を中心に、広く社会に対しても大学の現状と将来へ向けての目標と展望を示し、新たな理解と協力、支援を求めてまいります。

トピックス

中国

北京師範大学

本学情報文化学部との提携校である北京師範大学(提携歴史学部)が100周年を迎えました。北京師範大学は中国で最も早く創設した教育機関のひとつであり、中国政府から認可された重点大学の一つでもあります。前身は京師大学堂で、その一部である「師範館」が1902年北京師範大学となり、他の一部は北京大学となりました。12学院、24学部、21の専門研究所、25の研究センターを有し、在学生は15,000人を超え、外国人留学生も多数受け入れております。

開学100周年記念式典は9月8日(日)に、北京の人民大会堂で開催され、江澤民国家主席、朱鎔基総理をはじめとする国家の最高指導者、及び外国からの大学48校の代表を含む約6,000名が参列しました。

本学からは、武藤学長、區教授が参列すると同時に、現在北京師範大学に留学をしている本学学生17名が世界から集まっている留学生を代表して、特別に参列をしました。また、式典に先立つて行われた学長フォーラムでは、代表の29校の学長が意見を発表し、本学武藤学長も大学の社会責任について述べました。

9月10日(火)には、武藤学長と區教授が北京師範大学を訪問し、留学生の授業や学内の施設を見学。その夜は鄭副学長主催の日中学生交流会に参加し、地元の学生や日本からの留学生と一緒に語り合いました。



▲授業の様子



▲朱学部長(右から2番目)らと施設見学



▲学長フォーラムの様子



▲日中学生交流会



▲钟秉林学長(真ん中)

派遣留学&海外夏期セミナー

今年も、多くの学生が、派遣留学&海外夏期セミナーに参加します。



カナダコース

留学大学:アルバータ大学生涯教育学部

留学期間:8月4日(日)~9月9日(月)(5週間)

参加学生:情報システム学科2年次以上学生 16人

奨学金:(参加者1人につき)15万円

参加費:約47万円



韓国コース

留学大学:慶熙大学国際教育院

留学期間:8月30日(金)~12月29日(日)予定(17週間)

参加学生:情報文化学科2年次生 9人

奨学金:(参加者1人につき)20万円

参加費:約50万円



ロシアコース

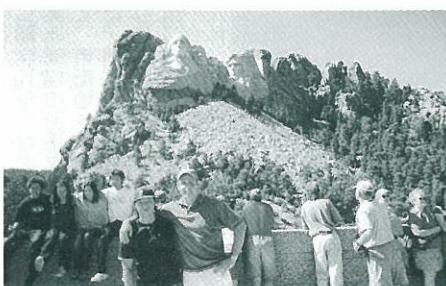
留学大学:極東国立総合大学

留学期間:9月12日(木)~1月12日(日)予定(17週間)

参加学生:情報文化学科2年次生 3人

奨学金:(参加者1人につき)20万円

参加費:約44万円



アメリカコース

留学大学:ノースウェスト・ミズーリ州立大学教養学部

留学期間:8月16日(金)~9月20日(金)(5週間)

参加学生:情報文化学科2年次生 13人

奨学金:(参加者1人につき)15万円

参加費:約51万円



中国コース

留学大学:北京師範大学歴史学部

留学期間:9月3日(火)~1月7日(火)予定(18週間)

参加学生:情報文化学科2年次生 17人

奨学金:(参加者1人につき)20万円

参加費:約50万円

奨学金授与式

去る6月5日(水)、派遣留学及び海外夏期セミナー奨学金授与式が行われました。担当教員から参加学生58人の氏名が読み上げられた後、各コースの学生代表に学長から奨学金授与証書が授与されました。

OPEN CAMPUS

オープンキャンパス・レポート

2002年の第1回オープンキャンパスが、7月27日(土)に開催されました。193名の高校生・父母が参加し、NUISの魅力を初体験。「校舎がきれい」「コンピュータが自由に使えるのがうれしい」「海外留学に興味を持ちました」「NUISの学生は楽しそう」「絶対この大学に入りたい!」など、うれしい感想を聞くことができました。

お知らせ 第2回オープンキャンパス 10月5日(土) 10:30~15:30
(受付9:30~10:00)

CONTENTS

- 学部・学科紹介
 - 入試情報説明
 - 入試問題の傾向と対策
 - 模擬講義
 - コンピュータ実習
 - カリキュラム、履修説明
 - 入試個別相談
 - 海外留学相談
 - 就職相談
 - 在学生によるなんでも相談

※昼食は学生食堂にて無料提供します。
ぜひで試食ください！

		講 義	コンピュータ実習	語 学
第2限	12:55 ～ 13:40	●日常の中の統計学 (情報システム学科 塚田 真一)	●インターネット入門 (情報システム学科 高木 義和) ●プログラミング体験 (情報システム学科 松井 孝雄)	●ロシア語は どういう言語? (情報文化学科 ブラーソル、アレクサンドル)
第3限	13:50 ～ 14:35	●中国はどんな国? 日中関係論 (情報文化学科 小林 元裕)	●インターネット入門 (内容は2限と同じ) ●プログラミング体験 (内容は2限と同じ) ●ホームページ再発見 (情報システム学科 山口直人)	
第4限	14:45 ～ 15:30		●ホームページを 理解する (情報システム学科 山口直人)	●CEP (Communicative English program) (情報文化学科 ハドリー、グレゴリー)

■申込み・問合せ
新潟国際情報大学 総務課広報係り

■申込み方法
TEL、FAX、E-Mail、郵送、いずれも可能。
〒950-2292 新潟市みずき野3-1-1
TEL : 025-239-3111 FAX : 025-239-3690
E-Mail : somu@nijis.ac.jp



NUIS-LIVE

～国際化・情報化を体感～

「大学ではどんなことを学ぶの?」という高校生のために、NUIS-LIVEを8月20日(火) 10:00~16:00に開催しました。NUISの特色ある講義を実際に体験してもらう、このイベントには定員をはるかに上回る52名の高校生が参加しました。中身の濃い授業に、みんな満足した様子で、大学の授業の雰囲気を味わっていました。

今回、公開した講義

- | 《基礎・共通科目》 | 《情報文化学科の科目》 | 《情報システム学科の科目》 |
|-----------|-------------|---------------|
| ●情報処理演習 | ●CEP | ●行動科学 |
| ●平和学 | ●中国語 | ●情報産業 |
| ●線形代数 | ●現代アメリカ論 | ●コンピュータソフトウェア |
| ●法學 | ●現代ロシア論 | ●ビジネスモデル |

平成14年度 学外実習受入れ企業一覧

企 業 名
味の素システムテクノ(株)
ケイ・システム(株)
サイバーコム(株)
JA新潟電算センター
(株)第四銀行
ツインバード工業(株)
東芝アイティーソリューション(株)
(株)東陽理化学研究所
(株)名古屋三越新潟店
新潟県庁
新潟県立図書館
新潟市役所
新潟商工会議所
新潟東映ホテル
新潟日産自動車(株)
(株)新潟日報社
日産プリンス新潟販売(株)
日本海区水産研究所
(株)博進堂
(株)BSNアインネット
(株)ビット・エイ
富士通電気(株)
(株)富士通新潟システムズ
北越銀行システム部
(株)北都

(50音順)

情報システム学科では、3年次の夏期休暇を活用し「学外実習（インターナンシップ）」を行っています。この授業は官公庁・企業等で約一週間の学外実習を行うことにより、大学で学んでいる内容が実社会どのように生かされるのかを経験し、その見聞を今後の学習に役立て専門知識の向上に資すること目的としており、卒業後の職業意識の形成、責任感、自立心の向上に役立てています。

受け入れ先企業ごとに担当の専任教員を定め、企業との綿密な打ち合わせを行い、希望学生を直接し、派遣者を決めています。

3年次の夏期休暇を活用し「学外実習（インターナンシップ）」を行っています。



学外実習

インターンシップ

●学外実習を体験して●

〈実習先〉JA電算センター

情報システム学科3年 安沢 俊

働くことの大変さを実感

私はJA新潟電算センターで学外実習をさせていただきました。最初はJAと名前が付いている通り、農協に関わっているのだろうというくらいのイメージしかありませんでした。初日に開校式というものがあり、すごく緊張しました。過去の報告書にも書いてあったので、挨拶を頭の中で考えていたのですが、うまく話せずに納得の行くものではありませんでした。

どのようなことをやったかと言いますと、恐らく新入社員が受けるようなガイダンスのようなことです。農協がどのようなことをやっているのか、施設内の説明、どのような業務を行っているのか。というような事を教えて頂きました。帳票の区分け作業やロータスノーツを使ったグループウェアの作成、COBOLプログラミング体験、給料明細の作成、貯金通帳の作成の実習などをさせていただきました。また、新システムに移行している時期でしたので、農協の職員の方々に研修をしているところを見学させて頂きました。

さすがに朝の8時半から夕方5時までというのは疲れました。実際に仕事をしたわけではありませんが、慣れない場所・慣れない事をしたので、その疲労も大きかったように思います。バイトとは違った疲れでした。残業があることも多いそうなので、大変だと感じました。

実習期間は一週間と、他の所へ行った人達よりは短かったのですが、普段見ることのできないものを見て、普段触れる事のできないものに触れる事ができ、とても貴重な体験をさせて頂きました。また、職場の雰囲気を感じる事が出来ました。そして働くことの大変さを改めて実感しました。ここで得た経験を生かして就職活動をしたいと思います。

〈実習先〉ツインバード工業株式会社

情報システム学科3年 坂井希代子

アサヒ旨茶の懸賞品であった温冷蔵庫をご存知ですか？きっと多くの人が「ほしい！」と思われたことでしょう。この製品を作ったのが、今回私が実習させていただいたツインバード工業なのです。

ツインバード工業は主に家電製品、アウトドア用品、健康機器等を製造し、金属表面処理等を事業としている会社で特に、家電製品に関しては個性の強いオリジナル商品をたくさん出している伸び盛りの企業です。

今回の実習にあたって、情報システム部の吉田さんは、事前にどんなことがやりたいか私達の希望を聞いてくださり、なるべくそれに見えるようにと、実習内容を組んでくださいました。私はツインバード工業のホームページを見た際にIT技術を駆使した社内コミュニケーションに大変興味を持ち、それについて学びたいと思いました。そこで吉田さんが考えてくださったのが、商品の企画から出荷されるまでの一連の流れの中で社内コミュニケーションがどのように活用されているかを知るための、情報システム部、商品開発部、物流センターでの実習でした。

このような多部門での実習はおそらく他では経験できず、ツインバード工業だからこそ体験できた非常に貴重なものだと思います。また、経営企画部の田村さんから、「このように実習内容を組んだけれど、一番大事なのはこの実習を通して、自分がやりたかったことでなくとも、各部所で自分の関心を結び付け、やりたいことにつなげていくことです」とのお言葉をいただきました。このお話を聞いて、目的をもつことが大事であり、しかしそれだけにとらわれず、日々の業務、生活でも学習意欲をもって、幅広いいろいろな所に目をむけて過ごすことも大切であると学びました。そして自分の実習への考えが甘かつたことをあらためて感じました。

知識や技術、社会人としての責任感等を学んだことももちろんですが、何より田村さんのように人生の先輩である会社の方々から貴重なお話を毎日のように聞くことができたことは本当に大きな収穫でした。

〈実習先〉新潟県庁

情報システム学科3年 熊田 智宏

インターンシップ先は新潟県庁情報政策課で、前半の一週間は電子県庁推進班、後半はIT推進係でそれぞれお世話をされました。

前半は主に県庁の内部向け申請書類様式の電子（データベース）化、後半は市町村・企業などを対象とした、IT推進に関するアンケートの集計とそのグラフ化という用務に携わりました。

電子県庁推進班では現在、2003年を目標として、電子的情報を紙と同様に扱う電子政府実現のために内LANの整備・強化を行っており、それに伴って平成15年を目標に本府・出先を通じ、パソコンの一人一台配備の実現を目指しているのだそうです。

ただ、実現には億単位のお金が必要であり、長引く不況がその足を引っ張っているのが現状なのだと思います。

IT推進係は平成13年の4月に新設されたばかりですが、IT関係研究会の運営や、IT関連施策の総合調整といった自治体等の先頭に立って、IT化を進めていくのが主な業務で、前述のアンケートを元に、どれだけIT化が進んでいるのかや、システム整備の遅れている所はないか、遅れはどう補うかに重点を置いているようです。

今回、電子県庁化に関しては、お手伝いできたことは大してなかったのですが、県庁の中だけということでも、それを丸ごと一つのLANで繋いでしまおうというのは、想像以上に大変な労力を必要とするなど感じました。

また、仕事が終わった後も、公務員試験についてのノウハウやより良い社会人としての構構えといった、学校にいるだけでは聞けないような話を聞かせて頂きました。

特に課の皆さんのが、「この仕事、トラブルはある人に任せておけば大丈夫」と言われることに、大変な誇りを持って仕事をしてらっしゃるということが最も印象深く、また、羨ましい感じました。

現在、私は公務員を目指して勉強中ですが、お世話にいたった職員の皆さんのように自分の仕事に自信を持てる人間になりたいと思いました。

これからのNUIS公開講座のお知らせ

「パソコン教室」中級編

●ワード、エクセルを中心に行います。

期日:10月19・26日
11月2・9日の全4回(土曜) 13:00~16:00

定員:80人

テキスト代:2,000円

(市販のテキストを使用)

申し込み受付:10月7日(月)9:00~
大学239-3111へ



「IT社会の現状」

①「わかりやすい情報セキュリティ」

～セキュリティの必要性、ウィルス対策などをわかりやすく解説
期日:10月30日(水) 18:00~20:00

②「わかりやすい電子政府、電子自治体」

～電子政府の背景、日本の現状、諸外国の現状を解説
期日:11月6日(水) 18:00~20:00

定員:80人 申し込み受付:10月15日(火)9:00~
大学239-3111へ

いずれも

「情報システム特論」

本学では、情報システム学科3年次生以上を対象とした授業を一般の方にも広く公開いたします。

日 時: 土曜日(ほぼ隔週)の午前9時~午前10時30分

会 場: 新潟国際情報大学

テーマ: IT政策、IT技術、ITインパクト分野、ITサービス産業と人材
受講料: 無料

受講申込: 毎回開講日の週の月曜日まで

受講申込・問合せ窓口: 総務課広報係

TEL 025-239-3111 FAX 025-239-3690 E-mail somu@nus.ac.jp

第1回 10月12日(土) [IT政策]

テーマ: 新潟県が進める情報政策

講 師: 新潟県総合政策部情報政策課長 中野雅至氏

第2回 10月26日(土) [IT技術]

テーマ: ブロードバンド&モバイル最新動向とシステムサプライヤの事業戦略
講 師: 日本電気(株)ニューITエバンジェリスト 林 雄代氏

第3回 11月09日(土) [ITインパクト分野(1)]

テーマ: e-ラーニングの最新動向
講 師: ウィルソン・ラーニング ワールドワイド(株)取締役 三浦邦夫氏

第4回 11月16日(土) [ITインパクト分野(2)]

テーマ: EC(電子商取引)の動向と県内事例
講 師: 新潟県商工会連合会指導部情報課長代理 辻川正敏氏

第5回 11月30日(土) [ITサービス産業と人材]

テーマ: ITサービス市場動向と期待する技術者像
講 師: NECソフト(株)執行役員常務 新潟支社長 宮崎 敏氏

平成15年度 入学 試験概要 (要約一覧)

◎詳細は募集要項をご確認下さい。

入試区分	募集人員	出願期間	試験日	試験地	試験実施教科・科目	
推薦	高校長推薦 指定校制	情報文化学科 情報システム学科 10 20	30 65 若干名 若干名	14.11.1(金)~ 14.11.11(月) 14.11.17(日)	新潟	本学が指定校と定めた高校長あて推薦依頼を行います。
	高校長推薦 公募制	情報文化学科 情報システム学科 30 35				面接・小論文 学力推薦要件:全体の評定平均値4.0以上又はいざれか1教科の評定平均値が4.2以上であること。
	高校長推薦 スポーツ	情報文化学科 情報システム学科				面接・小論文・基礎体力テスト
	特別選抜社会人	情報文化学科 情報システム学科				面接・小論文
一般	前期	情報文化学科 情報システム学科 35 60	95	15.1.7(火)~ 15.1.24(金)	新潟 上越 東京	・国語:国語Ⅰ・国語Ⅱ(いざれも古文・漢文を除く) ・数学:数学Ⅰ・数学Ⅱ(数学は、微分・積分を除く) ・外国語:英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択
	大学入試 センター試験	情報文化学科 情報システム学科 15 20	35	15.2.7(金)~ 15.2.17(月)	15.1.18(土), 19(日)	学科試験を課さず、15年度のセンター試験の成績で判定。 全教科の中から2教科2科目選択 配点:各教科100点 3科目以上受験した場合は高得点の2教科2科目を合否判定に使用
	後期	情報文化学科 情報システム学科 10 15	25	15.2.24(月)~ 15.3.5(水)	15.3.10(月)	新潟 ・国語:国語Ⅰ・国語Ⅱ(いざれも古文・漢文を除く) ・数学:数学Ⅰ・数学Ⅱ(数学は、微分・積分を除く) ・外国語:英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択

●入試に関する問合わせ先
新潟国際情報大学学務課
〒950-2292
新潟市みずき野3丁目1番1号
電話(025)239-3111
FAX(025)239-3690

駐車場出入口変更のお知らせ

情報センター棟の増築に伴い、学生用駐車場の出入口が
9月21日(土)から図のように変更になります。注意して下さい。



佐々木 寛
講師
リーズ・NPO/NGOと国際協力/西川潤、佐藤幸男編著、著、シ
会分担執筆

小林 元裕
助教授
●中国の私営企業等の実態とその国内政治への影響評価(露山
古希記念論文集刊行委員会編(文眞堂)分担執筆

安藤 潤
講師
●日本経済の新たな進路実証分析による解明/諏訪貞夫教授
●デスクロージャーとアカウンタビリティー監査人としての
公認会計士の責任/安達巧著(創成社)単著
●企業再生の戦略/安達巧著(創成社)単著

(2002年1月~9月現在)

教員の書籍出版

卒業生の便り

本学を卒業して進学・就職した卒業生の近況報告です。当時をよく知る先生から思い出を語ってもらいました。お一人の今後の活躍をお祈りします。

大学で学んだこと

慶應義塾大学大学院博士課程（管理工学専攻）

三條 知美

（情報システム学科
平成10年卒）



私が新潟国際情報大学に入学したのは、1997年4月、大学にとっても一期生という状況で大学生といつもがスタートしました。大学に関してわざわざ分かりませんでしたし、アドバイスいただけの先輩もいっつやつなかつたのですが、今思うとそれが非常に貴重な経験だったと思います。授業も、始めてうちはシステム演習といった科目があり、大学に入って初めてコンピュータを触った私は、とにかく面白く、ゲームのような感覚で授業を受けていました。逆に、コンピュータを触らない授業は面倒に思っていましたし、「コンピュータの基礎理論のような授業は、初めて聞く言葉ばかりで、なにを言っているのか解らない状態でした。

そんな私が大学院への進学を決心したのは、大学3年の冬でした。その頃にはだいぶコンピュータも使えるようになっていたのですが、さらにコンピュータと社会システムとの関係について知りたいとも思つていました。また、4年生になり卒業論文に着手すると、自分の知らないことを自分自身で知識に変えて行くことに非常に興味を覚えるようになりました。どうしても進学しようと思つて決意しました。そこで、ゼミの先生や当時学部長をしておられた浦先生からも長年、教授を勤めておられた慶應義塾の大学院での研究や入試の様子などを細かくうかがい、「目標とする大学院も決まりました。努力の結果、大学院に進学出来ることが決まりましたが、大学のシステム 자체が異なり、授業も、その大学の1~4年生で学んだ内容が前提になつていて、それが前提となるといった状況で、最初はとにかく戸惑うことばかりでした。

現在大学院に入つて4年目になります。興味を持つている内容が変化した部分もありますが、知識を自分のものにしていくことが面白いと思う感覚だけは、大学の頃と変わりません。最近では、まだささやかなものではありますか、今まで自分がそのようにして時間を掛けて身に付けてきたものを私と同じように知識を広げていきたいと思う人に、多少なりともアドバイスしてあげられたらと思っています。

さらなる飛躍を期待して

本学名譽教授・元情報文化学部学長 浦 昭二

昭二

内田君との出会い

ゼミ担当教員・情報システム学科教授 宗澤 拓郎

拓郎

大学ではじめて一期生への就職説明会が開かれたころ、卒業後学問・技術をさらに深めたいと考えている学生に集まつてもらつたことがあります。20数名集まつたかと思いますが、その中に三條さんがいました。卒業研究に取り掛かつてから2層彼女の大学院進学の意志は強くなり、卒業指導の宗澤先生と相談して、彼女の希望に相応しいのは慶應の理工学研究科であると考え、いろいろアドバイスしてきました。それ以来、いろいろお節介を続けてきました感じです。

いまさらほはあなたはスマートフォンで開かれている国際会議で研究発表をしているのでしょうか。電子商取引に必要な情報技術について基礎的な研究をしているとのことでですね。参加者の注目を浴びて相づぐ質問に音を上げているのでは?これからNU-1Sのたくさんの卒業生が、国際舞台で活躍することになるでしょう。みんなの先頭に立つて、大学の標榜する国際化・情報化の理想的な姿を描き、それに向かって一層の活躍をなさることを期待しています。

大学生活で得たもの

味の素システムテクノ(株) 内田 圭

（情報システム学科
平成14年卒）



私が新潟を離れてから、本当にあつという間に6ヶ月以上経ちました。温っぽく、過し難い南関東の夏も終わり秋になりましたが、まだ大学での生活は、鮮明に記憶に残っています。

広島で生まれ、東京で小中高と過ごし、新潟とは大学に入学するまで全く縁がななかつ自分にとって、新潟は非常に刺激的でした。広い新潟平野は開放的で、サイクリングやドライブをとても気持ちよくすることができ、のんびり休日を過ごすのには最適です。長い砂浜は散歩道です。中国や韓国、ロシアからの漂流物を見ながら歩くのは結構楽しいのです。また、新潟の市街に行けば色々な店が集結しているので、分散しています。

大学では、思い返せば、自分なりに充実した4年間を過ごせたと思います。元々、情報技術だけでなくその周辺の環境を学べる大学を探していてNRIを志望するに至りました。また、選択は間違つていませんでしたし、予想を越える収穫もありました。企業から来られた先生方と、大学をずっと教えてくれた先生方からバランスよく学ぶことができたことは、偏りの無い考え方を身に付けることができました。これらは、まだ始まったばかりの社会人としての生活ではありますが、非常に役にたつています。

私が、4年間大学で過ごす中でずっと基本方針として考えてきたことがあります。それは、大学とは自分がこれから何を学んで、どのように生きていけるかを選択するためのインデックスに過ぎないということです。例えば、大学ではコンピュータの技術で何をすることができるのか? NU-1Sではそこまで学べるはずです。問題は、その知識をどう応用して生かせるかということです。そのことは、社会でてから話をだけではありません。充実した学生生活にも大変重要なことです。社会でてから、様々な情報をインデックスとなります。

今、NU-1Sとしてシステムの開発業務に携わっています。お客様の要望の実現とコストや技術的な問題との関係に悩みながらもやりがいを感じながらがんばっています。これからも、大学で学んだことを生かしてやっていきたいと思います。

午後にはカンバセーションクラブと称して数人の現地学生が、グループごとに街を見物しながら会話を学ぶ。留学したエドモントンには巨大な商店街(モール)があり、買い物英語の実践的教育になる。

研修の後半3週間はホームステイし、カナダ人と家庭生活について直接会話を交わす。北米のIT事情については、アルバータ大学のウエブマスターが最新のウエブ制作技術を実例を示して解説し、また簡単な実習を行なう。また、午後には地元のIT関連企業を訪問し、ITの実態を見学する。

学生たちによる日記が、大学のホームページに掲載されており、厳しいことも書かれているが、大半の学生は、カナダを通して「世界」を体験したようである。これは、ホームステイでお世話になったご家庭には、中国人、ペトナム人、インド人もおり、モールに並ぶ食品にはこれらの国の料理が種々並べられており、国際化を身をもつて体験できたようである。

湧 YUUGEN 源

編集後記に代え

広報委員長 正田 達夫

本学の特長の一つとして国際化を体験できることがある。情報文化学科では、中国、アメリカ、韓国、ロシア、そして情報システム学科ではカナダに留学生を派遣している。

筆者は、今年の八月から九月までカナダ研修に随行した。この研修の目的は、英語を現地で密度濃く学ぶこととIT先進国である北米のIT事情を学ぶことにある。

英語については、木曜日を除く毎日午前中、八一九人の小クラスで実践的な授業がある。前日にあつたことを見たことを話す。英語の表現技術だけではなくその周辺の環境を学べる大学を探していくNRIを志望するに至りました。企業から来られた先生方と、大学をずっと教えてくれた先生方からバランスよく学ぶことができたことは、偏りの無い考え方を身に付けることができました。これらは、まだ始まったばかりの社会人としての生活ではありますが、非常に役にたつています。

私は、4年間大学で過ごす中でずっと基本方針として考えてきたことがあります。それは、大学とは自分がこれから何を学んで、どのように生きていけるかを選択するためのインデックスに過ぎないということです。例えば、大学ではコンピュータの技術で何をすることができるのか? NU-1Sではそこまで学べるはずです。問題は、その知識をどう応用して生かせるかということです。そのことは、社会でてから話をだけではありません。充実した学生生活にも大変重要なことです。社会でてから、

午後にはカンバセーションクラブと称して数人の現地学生が、グループごとに街を見物しながら会話を学ぶ。留学したエドモントンには巨大な商店街(モール)があり、買い物英語の実践的教育になる。

研修の後半3週間はホームステイし、カナダ人と家庭生活について直接会話を交わす。北米のIT事情については、アルバータ大学のウエブマスターが最新のウエブ制作技術を実例を示して解説し、また簡単な実習を行なう。また、午後には地元のIT関連企業を訪問し、ITの実態を見学する。

学生たちによる日記が、大学のホームページに掲載されており、厳しいことも書かれているが、大半の学生は、カナダを通して「世界」を体験したようである。これは、ホームステイでお世話になったご家庭には、中国人、ペトナム人、インド人もおり、モールに並ぶ食品にはこれらの国の料理が種々並べられており、国際化を身をもつて体験できたようである。